

付着生物ラーバ情報

1 ラーバ等の出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ(通称: ハナ)

ラーバは見られていません(図2)。

(2) キヌマトイガイ(通称: コメガキ)

ラーバは久栗坂沖で395.0個体/m³、川内沖で576.6個体/m³見られました(図3)。

(3) ムラサキイガイ

ラーバは久栗坂沖で30.6個体/m³、川内沖で222.7個体/m³見られました(図4)。

(4) オベリア類(クラゲの仲間、通称クサ)

クラゲは見られていません(図5)。

(5) アミクサ(海藻、通称クサ)

小枝は見られていません(図6)。

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	サラボヤ	キヌマトイガイ	ムラサキイガイ	オベリア類		アミクサ
						クラゲ	小枝	
久栗坂沖	H31.3.20	0.0	1.1	395.0	30.6	0.0	0.0	0.0
川内沖	H31.3.20	0.0	0.0	576.6	222.7	0.0	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

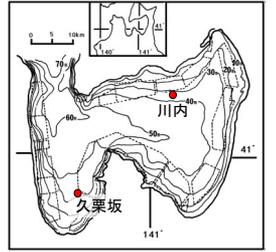


図1 ラーバ調査地点

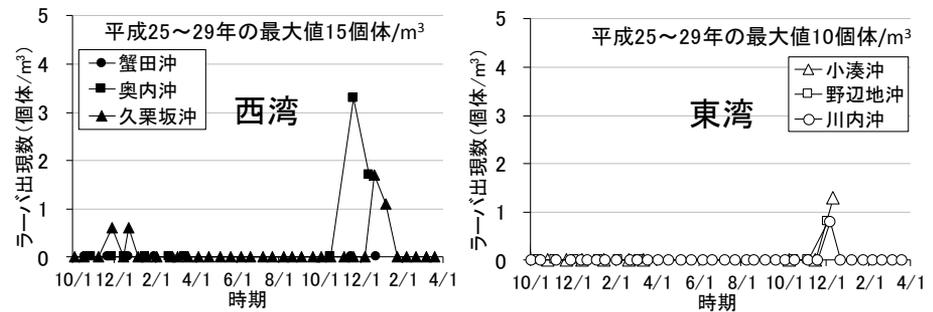


図2 ユウレイボヤ出現数の推移(平成29年10月～平成31年3月)

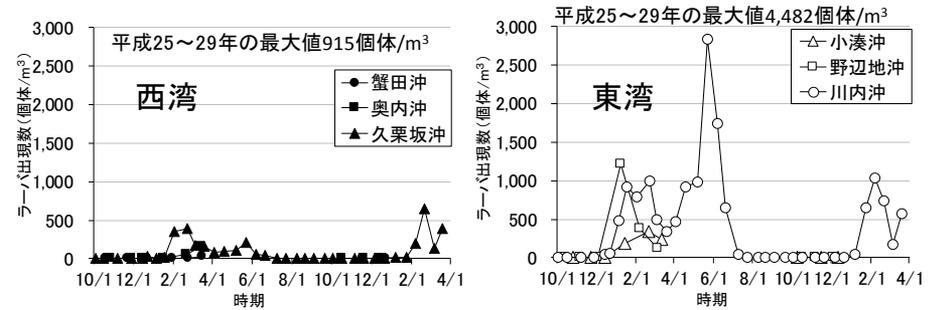


図3 キヌマトイガイ出現数の推移(平成29年10月～平成31年3月)

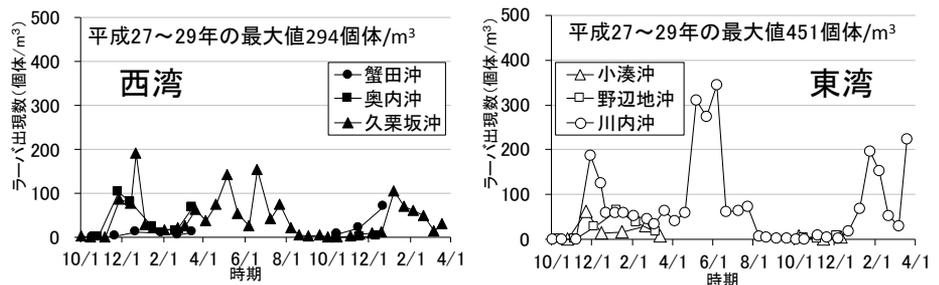


図4 ムラサキイガイ出現数の推移(平成29年10月～平成31年3月)

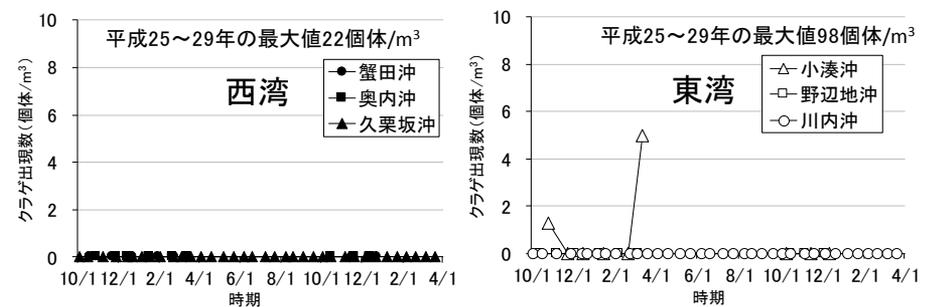


図5 オベリア類クラゲ出現数の推移(平成29年10月～平成31年3月)

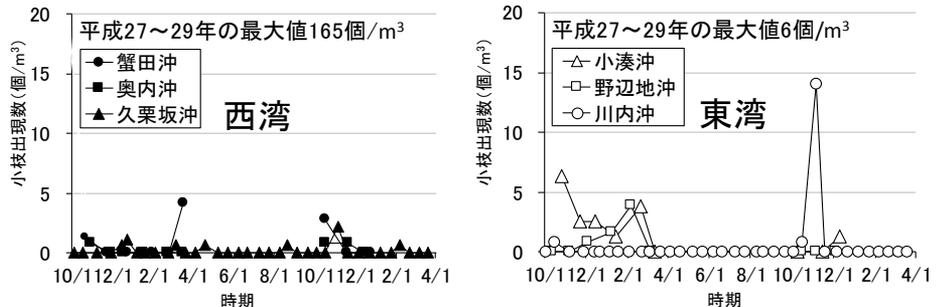


図6 アミクサ小枝出現数の推移(平成29年10月～平成31年3月)

2 今後の見込み

キヌマトイガイ、ムラサキイガイのラーバが増加しています。4～6月にかけてさらに多く出現するので、籠や耳吊り、ホタテガイやマボヤの採苗器への付着が増加すると思われます。

アミクサ小枝とオベリア類のクラゲは見られていないので、付着は少ない可能性があります。

3 洋上籠洗浄の注意点

異常貝が多い場合、洋上籠洗浄を行うと、さらに異常貝が増え、へい死につながるので止めましょう(図7)。

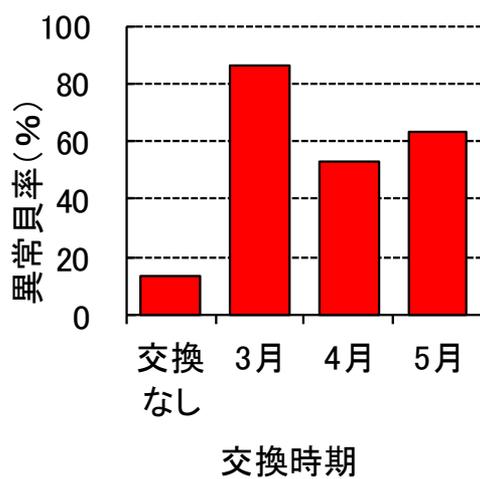


図7 付着物除去を目的としたネット交換によるホタテガイの異常貝率(西湾で平成29年6月測定)

4 お知らせ

今季の付着生物ラーバ情報は今回で終了です。今後のキヌマトイガイ、ムラサキイガイのラーバの出現動向については、ホタテガイ採苗速報を参考にしてください。

